

令和6年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・校内の児童の実態に応じた学習活動を工夫し、どのような力を身に付けさせたいかを明確にした年間指導計画を作成することができた。
- ・学習カードやICTの活用することによって、運動のポイントを理解する力を高めることができた。
- ・導入時に運動の参考動画などを視聴させたり、友達と動きを見合って助言し合う活動を充実させたりすることによって、運動への関心を高めることができた。

(2) 課題

- ・タブレットを使用して、手本となる動画を見せたり自分の動きを振り返らせたりしたが、校庭の体育では、埃が入ってしまうこともあり使用が難しい。また、タブレットを使用すると、運動量が減ってしまうことが課題だった。運動量の確保と、ICT機器の利用のバランスを考えて使用していく必要がある。
- ・めあてに正対した振り返りが書ける児童が少なかった。めあての例を示したり、振り返りの観点を明確にしたりする指導を継続する必要がある。
- ・夏の気温が高くなってきているため、屋外での運動が十分に行えなくなっている傾向がある。単元の内容を時期に合わせてずらしたり、屋内での運動を充実させたりする必要がある。

2 分析（観点別）

①低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・体幹、腕や足の筋力が十分でない児童がいる。 ・気を付けの姿勢、50m走でまっすぐに走ることなど、基礎的・基本的な技能が身に付いていない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてカードを提示すると、めあてを具体的に捉え頑張ることができる児童が多い。 ・運動の工夫（しっぽ取りで、どのように動けば取りやすかったり取られづらかったりするのかなど）を自発的に考えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かすことが好きな児童が多い。 ・縄跳びやマラソンに意欲的に取り組む児童が多い。 ・経験不足が顕著で、ボールや水泳などに、怖がって取り組めない児童が多い。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒など、固定遊具を使った運動の技能が低い児童が多い。 ・ボールを操作する運動に普段から取り組んでいる児童が多く、ゴール型ゲームの技能が高い児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でめあてを決めることが難しい児童がいる。 ・運動するときのポイントに気付き、友達に伝えられる児童がいる一方で、自分の動きを振り返ることが難しい児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力しながら用具の準備・片付け、活動に意欲的に取り組むことができる。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・領域によって、得意・不得意がはっきりしている。特に器械運動やボール運動については、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して自分の運動している姿を客観視することで、自己の課題に気付いた児童が多かった。 ・めあてに正対した振り返りを書こうとする意識が高まったが、具体的に書ける児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対してすすんで取り組む児童が多い一方で、運動の楽しさを味わうことができず、学習への意欲を味わえない児童もいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 準備運動などで、体幹の強化につながる運動遊びを取り入れる。 身に付けさせたい動きを教師が明確にしたうえで、その動きにつながる運動遊びを取り入れる。 いろいろな動きを一回の授業内で行えるように計画し、運動経験を積ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> めあてカード等を活用し、自分の課題や到達すべき目標を可視化して提示できるようにする。 動きのポイントを焦点化し、お互いの運動を見合う時間を設ける。また、友達のよい所や、自分が見つけた運動のポイントを発表させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が意欲的に取り組める導入や場の設定を行うようにする。児童相互でよいところを見付けあったり励ましあったりする時間を設定する。 一学級一取り組みを授業の最初や休み時間に行うことで、運動の日常化を図る。 運動経験が少ない児童も怖がらずに取り組めるよう、スモールステップで活動に取り組ませる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 休み時間も使える鉄棒のカードを活用して日常化を目指しながら、技能の向上を図る。 運動の正しい動きを例示したり、掲示したりすることで技能のポイントを理解できるようにする。 基本となる動きや知識を単元の前半で重点的に指導することで、後半の発展的な運動やゲームがスムーズに行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のめあてや工夫したポイントなどを考えたり、書いたりする時には、観点や具体例を示したりすることで、教科のねらいに沿った思考、表現力を伸ばしていくようにする。 教師がめあてを提示して、児童が自分に合っためあてを選択しやすいようにする。 良い例とそうでない例を提示することで、2つの例を比べて動き方のよさや運動するときのこつを考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入に運動の参考動画等を視聴させることで、運動への関心を高める工夫をする。 運動が苦手な児童が取り組みやすいように、準備運動や補助運動の内容を簡単な動きで構成されるものに工夫する。 準備や片付け、活動中での協力する姿を大いに賞賛して価値付けする。 運動中にも積極的に肯定的な励ましや助言を行うことで、主体的に活動に取り組めるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 運動のポイントを正しく知ることができるようカードや掲示物、ICT 機器を活用しながら運動に取り組ませる。 器械運動・ボール運動では、児童の能力に合わせた場を設定し、スモールステップで達成感を味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードやICTを活用し、チームの特徴に応じた作戦や、それぞれの運動のよりよい動きについて考えられるようにする。 課題の達成を意識させるために、ルールを工夫したり、自分に合った場や練習方法を選んだりできる場面を設定する。 児童同士で見合ったり、教え合ったりする活動を取り入れ、運動のポイントを理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の授業の「ねらい」「めあて」を明確にし、一人一人が課題をつかめるようにする。 めあてを達成するための十分な運動量の確保を行う。 ICT 機器を活用しながら、運動に取り組ませる。